巻 頭 言

NICUにおけるファミリーケアについて考える
－小児病棟におけるファミリーケアの経験から－

杏林大学医学部付属病院　木　下　千　鶴

現在，NICUを離れ，小児病棟に勤務しています．NICU同様，家族中心のケアの重要性を再認識するとともに，NICUにおけるケアについて，見直す機会にもなっています．

NICUでは，両親がはじめて子どもと出会い，親になっていく過程の始まりから支援していきます．両親は，疾患や病態，ケアについてはもちろん，子どもそのものについても，わからないことだらけです．一方で，小児病棟では，子どもは家族の一員としてすでにしっかりと位置づけられています．そして，子どもの個性をふまえた日常的なケアは，両親の方が看護者よりも知っている，できるのがあたりまえであり，子どもにとっても両親が一番信頼でき，安心できる存在であることが殆どです．

こういった関係の違いの中で，例えば，NICUと比べ，小児病棟では，ご両親は，看護や治療について，要望やご意見，あるいは納得できないことについての疑問などを，子どものためにと，率直に述べてくださいます．また，日常的なケアについては，できる時には当然のこととして自らすすんで実践されています．これはあくまで私自身がNICUで経験してきたことに比べてということであり，ご両親の立場からみれば，かなり遠慮したり気遣ってくださったり，もう少し看護師にやって欲しいなどと思われているのではないかとも思いますが…….

NICUにおける家族中心のケアでは，家族はひとつのユニットであり，生まれた子どもは，たとえ物理的に離れていても，すでに家族のメンバーであると捉え，子どもが新たなメンバーとして受け入れられ，家族が発展することを支えることが重要です．また，看護職をはじめとした医療者と家族との信頼関係を基盤に，両者の協動によって実践されていくものです．そして，両親が，ケアや医学的問題などについて意見を述べたり，意思決定に参加したり，子どものケアに主体的に快く参加できるように支援していくことが重要です．

ご家族からご意見をいただいても，様々な要因からそれに応えられず，正直対応に苦慮することもあります．しかしそれ以上にご両親がその意思を表出してくださったり，主体的にケアを実践されたりする場面に出会うたびに，家族が中心となったケアが行われているのだと，とても嬉しくも思います．

NICUでは，両親は子どもとの関わりを深め，子どもを知ることで，親としての実感をもち，子どもと積極的に関わったり，意見や疑問が表出できるようになったり，ご両親自身のもつ力を信じられるようになっていました．同時に，罪責感や不安といった，様々な辛い気持ちが癒され，それによって，目の前の子どもに目が向き，子どもとの関わりをますます深めてゆくことができていました．

子どもを知ることや，ご両親のペースでケアに参加できるように支援すること，心理面のケアの重要性を改めて感じるとともに，小児病棟におけるこの経験をいつかまたNICUにおける家族中心のケアの実践に役立てていければと思っています．